



市民活動の新たな挑戦

《意見交換会》— 1

障害児・者とその家族をサポートする介護・介助の質を高めるために

「障害者のレスパイト」を考える

障害者支援費制度が始まるなどの変化の中で、これからの障害者のレスパイト(障害者本人や家族に二時休息を提供する)事業はどうあるべきか。現場からの報告と意見の交換をしていただいた。

〔出席者(順不同)〕

- 司会／山岡義典(日本NPOセンター常務理事、法政大学教授)
- コンビニの会(代表大川美知子さん、今路信一郎さん、内田泰史さん)
- サポートハウスばお(篠崎澄江さん、坂倉美緒さん)
- フリーダム十勝(理事長田中利和さん、山田幸秀さん、大浦由文さん)
- エンバワメント・プランニング協会(代表野嶋スマ子さん)
- かたるべ社(所長小谷誠之さん)
- 第2かたるべ社(山喜多恒夫さん)
- ファイザー横浜ハッケージセンター(所長平野章さん)



出の部分だけは昔のボランティア団体の感覚で、収入だけが事業体になったということもありました。支援費の部分は会計のプロが付いて収支も成り立って、レスパイトの部分はボランティア的にやっている、人の関わり方も変わってくる。そうすると、スタッフかボランティアかどちらに関わるかによって意識も違ってきて、やりにくくなることも出てくる。そういう意味で、今度の支援費事業をやるところは、介護保険で経験した団体の知恵をうまく生かすといいと思いますね。

障害者支援費制度で変わったこと



山岡義典
日本NPOセンター
常務理事

大川 障害者とその家族の生活支援を24時間体制で行うという意味をこめて「コンビニの会」と名づけ、ボランティアの学生80名、主婦20名ほどが集まり、一軒家を借りて(無料)7年前にスタートしました。最初は会員50名でしたが、現在は76名。待機者が28名ほどおり、会員の利用時間は平成14年度実績で1万2千時間を超えています。ニーズの増加に対応しきれなくなり、150坪の土地に新たに2棟の建物を建て、1棟を通所施設、

1棟をレスパイトの拠点(生活支援部)としています。

山岡 今年度から障害者支援費制度が始まりましたが、組織やサービスのあり方などに変化がありましたか。

大川 今年から生活支援部をレスパイト事業とホームヘルプ事業に分けて、質の高いホームヘルプサービスを目指しています。支援費制度でどう変わるかわかりませんが、名古屋市では生活支援ネットワークというのが立ち上がり、国の制度を自治体でどう使いやすくするかという懇談会が繰り返し開かれて、私たちのレスパイト事業の内容を市が

コンビニの会
大川さん(左)、今路さん(中)、
内田さん(右)



重んじられたかたちで受け止めてくれたのはよかったです。レスパイト事業は人手が足りませんし、15年度には常勤職員だけでも5人増えました。組織が大きくなると、ここをはじめた目的や考え方が隅々に伝わっていくのかどうか不安です。予算を立てるのも大変です。

山岡 高齢者介護保険が始まったときと同じ状況だと思えますね。地域で活動してきた団体が介護保険に入ったとたんに急に大きくなったり、利益が上がって、収支をきちんとしていけば払わなくてもいい法人税を払ったりした。支

職員の休みをどう確保するか

大川 夏休みなど、利用が集中するときのスタッフの休みにはどう対応していますか。

篠崎 利用者が多く、どうしても手が足りない場合はお断りしています。多いときで月に10件ほどです。スタッフの休みは平均して月に7〜8日は確保しています。利用者が少ない正月は休みにしました。

山岡 我々のようなNPOサポート組織でも365日朝から夜中までやっているところもある。しかし、24時間対応といっても利用率の低いときもあるのだから、緊急の対応さえ考えておけば、そういう時期を休みにするのはいいと思います。

2002年度 助成対象プロジェクトの 団体名・活動内容・ 主な活動地域

1	重度知的障害者の デイサービス事業の創設 特定非営利活動法人 障害者家族地域生活支援事業所 フリーダム十勝(北海道)
2	精神障害回復者 小規模共同作業所マップ 特定非営利活動法人 札幌作連(北海道)
3	商店街で活動する精神障害者の ピアサポート支援事業 特定非営利活動法人 SAN Net青森(青森県)
4	青年とまちの人とがふれあう場 「とらいスペース」の開設 特定非営利活動法人茨城NPO センター・コムズ(茨城県)
5	ひきこもり当事者による 雑誌発行プロジェクト 特定非営利活動法人 東京シュレ(東京都)
6	女性アルコール依存症者 サポートセンター事業 特定非営利活動法人 ジャパンマック(東京都)
7	ミャンマー/ドーボン郡区 障害者支援事業 特定非営利活動法人 ワールドビジョン・ジャパン(東京都)
8	プライマリヘルスケア・アプローチ による路上死のない街へ 新宿連絡会医療班(東京都)
9	摂食障害者の自立と成長のための ピアサポート事業 日本アレルギー・アミア協会 (東京都)
10	病気の子ども支援のための 情報発信とネットワーク構築事業 病気子どもネット・京都(京都府)
11	知的障害者の性の ワークショップ事業 特定非営利活動法人エンパワメント プランニング協会(大阪府)
12	小児がん患児・家族の 精神的サポート体制の確立事業 特定非営利活動法人 エスビューロー(兵庫県)
13	精神障害者ピアヘルパー等 養成事業 兵庫県高齢者生活協同組合 (兵庫県)
14	在日外国人高齢者の地域における 居場所づくり事業 神戸定住外国人支援センター (兵庫県)
15	芸術とヘルスケアの関わりによる まちづくり事業 アートステーションどんごや(宮崎県)

※他に、12団体が継続助成対象として
プロジェクトを行なっています。

【ファイザープログラム】 心とからだのヘルスケアに 関する市民活動支援

2003年度 募集要項

- 募集期間:2003年6月16日～7月18日
- 助成金:1件あたり300万円を上限とし、
本年度は15件程度の助成を予定して
います
- 助成の期間:2004年1月1日～12月31
日(1年間)とします
- 対象となる分野:特に次のようなプロ
ジェクトを重視します。
 - 成長過程にある人たちの心身のす
こやかな発達を支援する活動
→おもに10代が抱える問題を克服し
生きる喜びをもつことを助けるもの
 - 社会的な受け皿がないために保健・
医療が受けられない人たちの心身
のケアを支援する活動
→外国人、路上生活者、PTSD(心的
外傷後ストレス障害)などの人たち
を対象とするもの
 - 障害をもつ人や療養にある人たち
の充実した生き方を支援する活動
→身体障害、知的障害、精神障害など
の人たち、難病・長期療養にある人
たちの社会生活を豊かにするもの
- 問い合わせ先:
ファイザープログラム事務局
プログラムの詳細は、こちら
[http://www.pfizer.co.jp/pfizer/
company/philanthropy](http://www.pfizer.co.jp/pfizer/company/philanthropy)

田中 私の本職は帯広にある
養護学校の教員です。帯広の
入所施設は、7～8年前まで
障害児は受け入れないという
ことになっていました。それ
なら障害児を対象にした新し
い施設を作ったほうがいいと
いうことで、平成9年にスタ
ートさせました。当初は障害
児の学童保育的なことをメイ
ンに、大人も使えるレスパイ
ト施設として町内会館を借り
ていたのですが、4年前に西
帯広に「フリーダムハウス」
として一軒家を借り、現在は
さらに2か所の施設を市内に
開設しました。この11カ月間
の利用時間は1万1千時間で
す。来年は常勤スタッフを6
名に増やし、非常勤も含めて
総勢30名でやっていくつもり
です。それによって障害児90
名に対し年5万時間、1人当
たり500時間のサービスを
提供できることとなります。

山岡 支援費があっても実際
には利用者負担金もあったり
することについて、問題はあ
りませんか。
田中 田舎では障害者は無料
という考えが当たり前で、お
金を払って子供を預ける習慣
がない。そのために身近なレ
スパイトサービスを利用して
いないという人もいます。都
会のやり方をそのまま持ち込
んでもダメで、子供や親たち
にとつて何が問題になってい
るかを個別に見ていかなけれ
ばならないと思っています。
山喜多 かたるべ社は横浜市
内の地域作業所です。第1と
第2の2カ所あって、全部で
35名が働いています。知的障
害者が多く、働くことを通じ
て社会参加していくことに重
点を置いています。職員が付
き添って一般の会社に行つて
作業するガイドヘルプ事業も
5年前からスタートしていま
す。レスパイトも行っていま
すが、うちは法人化していな
いので、支援費制度とはあま
り関係なく、市から助成金を
頂いて運営しています。



フリーダム十勝
田中さん(左)、山田さん(右)
大浦さん(右)



ファイザー
横浜ツケージンセンター
平野さん(左)
山喜多さん(右)

山岡 先ほども話が出ました
が24時間対応についてのご意
見はどうですか。
田中 私は24時間営業という
ことを大げさに掲げるのはど
うかと思っています。利
用者の満足度というのは、ス
タッフがその家族や子供とど
れだけ共感をもって接するか
にかかっているものであって、
必ずしも24時間だからという
ことではないと思います。支
援費制度については、まだ未
整備なのは事実ですが、どう
すれば有効に活用できるかを、
利用者の立場に立つて私たち
も制度を研究することが大事
だと思つて。そして、行政にと
んどんアプローチすべきです。
大川 支援費に関しては名古屋
屋市はよく動きました。私た
ちは前からショートステイの
設備をレスパイトサービスと
して認めてくれるように言い
続けてきたんですが、それが
認められた。それから24時間
対応についていうと、うちは
盆も正月も切れ目なしです。
たまたま利用したいときに休
んでいたら、やっぱりお母さ
んは途方に暮れる。生活の深
刻さに楽な時期はないんだと



サポートハウスばお
篠崎さん(中)、
坂倉さん(右)
エンパワメント・
プランニング協会
野嶋さん(右)

野嶋 私のところでは、知的
障害者とその支援者の「性の
ワークショップ」を実施して
います。身体障害者の性の問
題はある程度認められてきて
いますが、知的障害者に関し
てはまだ遅れています。性衝
動のみを心配して手をこまね
いている状態で、適切な指導
や助言がなかった。そこでス
ウェーデンに長くおられた大
学の先生が企画した「性のワ
ークショップ」を知ったのが、
活動のきっかけです。まず保
健や性知識の程度を確認する
ことから始めて、身体の仕組
み、男女の違いや変化などの
話をし、相手と自然にふれあ
う機会をつくつたり、恋人を
見つけたり結婚するにはどう
すればいいかなど丁寧な段階
的に進めていきます。全8回
で、合宿も行います。知的障
害者は性的に成熟しない、性
衝動を制御できない、子供を
育てる能力がないといった偏
見をどう変えていくかが、私
たちの活動の第一歩になると
考えています。